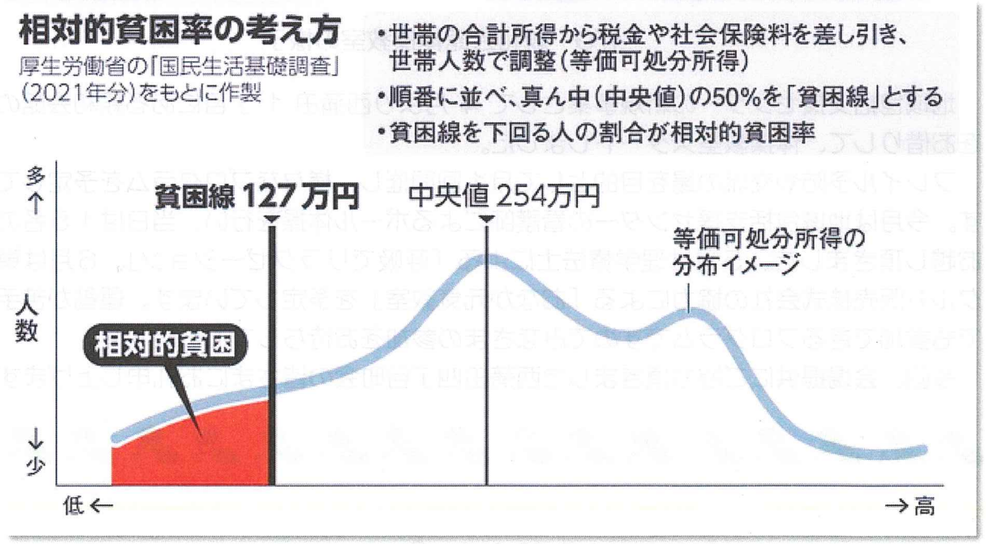
蒲田西地区日常生活圏域地域ケア会議

「蒲田西地区の高齢者の貧困を考える」を開催しました

去る３月１２日にカムカム新蒲田２階会議室にて、日常生活圏域地域ケア会議を開催しました。今回のテーマは「蒲田西地区の高齢者の貧困を考える」とし、私たちの地域で生活困窮に陥っているケースを紹介し合いながら、地域のたすけあいで何ができるのか、社会的制度として何が必要とされているのか、何が欠けているのか、これらについて参加者同士で意見交換を行いました。参加下さったメンバーは西蒲田地区の民生委員児童委員の方をはじめ、地域のボランティア団体の代表者、社会福祉協議会より成年後見センターの職員、地域福祉コーディネーター、蒲田地域福祉課高齢者地域支援担当、生活福祉課の係長、地域の居宅介護支援事業所のケアマネージャー、JOBOTA、地域包括支援センター西蒲田、新蒲田の職員の合計２１名で、グループをＡとＢの二つに分けてそれぞれで話し合いました。

話し合いの大前提としてまずは「そもそも貧困とは何か」という定義から説明しました。貧困、と一言で言っても「それはどういう状態を指すのか？」「その基準はあるのか？」ということの説明から始めています。ここでも説明します。

「貧困」とは「教育、仕事、食料、保健医療、飲料水、住居、エネルギーなど最も基本的な物・サービスを手に入れられない状態」を指すとされています。我が国で問題になるのは「相対的貧困」です。相対的貧困とは下のグラフのイメージで、等可処分所得（いわゆる手取り額・実際に使える金額）を順位付けし、その真ん中（中央値）からさらにその５０％のラインを「貧困線」、その貧困線を下回る部分にいる割合を「相対的貧困率」といいます。（２０２１年の相対的貧困率は１５．４％でした）



わが国日本は先進国や経済大国といわれている一方で、裕福な人たちと貧困状態にある人が混在しており、さらにその格差は大きくなってきています。私たち福祉職が相談に応じる人たちにおいても、貧困状態にある人たちが思いのほか多いのです。そのなかには「家賃が払えない（住み続けることができない）」「社会保険料が払えない」「仕事に就けずに収入が得られない」「お金がないため食料を手に入れることもできない」という人たちが私たち蒲田西地区においてもたいへん多く見られています。

今の世の中、何をするにも、何を手に入れるにもお金が必要です。では「なぜお金が足りなくなるのか？」その原因は様々です。高齢者で考えるならば、そもそもの年金受給額が少ない（もしくは無い）、生活保護が受けられない、過去の借金の返済に追われている、単純に浪費している、他にもいろいろな要因が考えられるでしょう。こうした相対的貧困が私たちの社会に何をもたらすのか。貧困の固定化、格差の拡大、社会の分断、公平という規範が失なわれることなど、これもいろいろと考えられますが、間違いなく言えることは「このままの社会でいいわけがない。」ということです。ではどうするのか・・・・それを考えるにはまず大前提として他人事ではない「我がこと」として考えること、かつ貧困に苦しむ人たち自身の自己責任として結論付けないことを踏まえて参加者の皆さんで討論しました。

Ａグループ
民生委員、ボランティア団体代表、社会福祉協議会
地域福祉課、生活福祉課、包括西蒲田の面々

両グループとも意見は様々でした。

各種支払いが滞らないようにするための工夫やアイデア、福祉サービス、または社会福祉制度の不十分さについての指摘などもありましたが、予想以上に多く聞かれた意見としては、なぜ貧困に陥るのかを考えたときに、「貧困の背景には孤立がある。」貧困に陥る高齢者のなかには地域社会から孤立している、周囲から見放されていることが多く、誰の手助けや助言も得られず、相談もできないままになっていることが多い傾向がある。「貧困をなくしていくには、地域社会でのつながりを持つことや、そうした人同士のつながりを多く作っていくことである。」何事もひとりで対処し解決しなければならないとばかり考えず、他人をもっと頼ってお互いに助け合うようになることで貧困を防ぐことができるようになるかもしれない。」というものでした。

Ｂチーム
民生委員、JOBOTA、社会福祉協議会
地域福祉課、生活福祉課、包括新蒲田の面々

貧困はその当事者だけの問題ではなく地域のそして社会全体の解決すべき課題であるといえるでしょう。その課題を地域に住まう人たちと、その地域の方たちを支援する福祉職のみなさんで共有できたという点で、今回の地域ケア会議はたいへん有意義であったと思います。

今回は高齢者の貧困というテーマでの地域ケア会議でしたが、令和７年度以降も続編として、さまざまな分野における相対的貧困について取り上げていければと思っています。

これからも、地域ケア会議には、より多くの地域住民の皆さんにご参加いただきながら、地域の課題をどう解決していくかを共に考え、よりよい地域社会づくりを共に目指していければと願っています。文末ながら、今年度もご支援の程宜しくお願い申し上げます。